

特集

看護教員のための短・中・長期的な
国試対策

学生自身・教員自身・学校の対策 島田千恵子
 国家試験で問われる能力をどう育成するか 池西静江
 合格率100%の背景にあるもの 大日向輝美
 池西先生の指導を受けて 岡本杏華
 大日向先生の指導を受けて 若生有加
 『実力養成』講座 参加者の声 尾田恵／船場清三／畠山幸喜

【連載】

専任教員養成講習会におけるeラーニング活用後の報告・2 森松薫
 看護学生・新人看護教員を対象としたリスクアセスメントトレーニング・2 齊藤美奈子／石川雅彦
 心一文字・6 園家文苑＋水戸優子
 ナースよ、リアリストたれ！ 中西睦子が語る看護と教育・6 松澤和正／中西睦子
 ひろがる災害医療と看護 身につけるべき知識とスキル・9 内海清乃
 看護実践力を育む教育方法の開発 日本赤十字広島看護大学の試み・11 山本浩子ほか
 看護はやっぱり面白い!? アラフォー女子大生の「看護」探求の日々・18 片山紀子
 Mail From USA —『JNE』を読み、世界の看護教育の流れを知る・62 榊原優花

編集後記

◎編集室ツイッター <http://twitter.com/KANGOKYOIKU>

●「ピア・エデュケーション」を検索すると、HIV関連の性教育の話題ばかりがヒットするのに驚いたことがあります。大学生が小中学生に「同じ」学生の立場で情報を伝える例が多いようですが、大学生と小中学生をピアとするのには、年齢差から考えて、かなり無理があるのではないかと感じていました。もっとも、教員による情報伝達ではなく、「学ぶ」立場の学生が自ら考えて、問いを発して答えを導き出すという意味でならば、「ピア・エデュケーション」と言えなくもないでしょう。●ピアの力を活かした教育において大事なのは、あくまで一方的でなく、双方向を重視すること。これはすべてのアクティブラーニングに共通しています。学生対象だけでなく、教員のための研修や講座においても、ピアの力をもっと活用していったほしいと願っています。 …大野

●この度、編集室を離れることになりました。入社したばかりでやってきたのが3年前。当初は「ヒヤリ・ハットは帽子ではありません」という冗談の意味もわからぬまま笑ったり、「補助漢方って何だか怪しい響きですね」と言って先輩を困惑させていた私も、読者並びに執筆者の皆様のご指導のおかげで、保助看法の第一条を諳んずるほどに成長することができました(身体も5kg成長しました)。●55-5というゾロ目の号でご報告することになったのも何かの縁を感じます。もしかしたら66-6で舞い戻るなんてことがあるかもしれません。11年後ということは、ちょうど2025年問題を迎えるタイミングですね。変わりゆく社会の要請を反映し、これから看護教育はどのように発展していくのでしょうか。少し離れた所から見守ってきたいと思います。これまでありがとうございます。 …加藤

看護教育 第55巻 第5号 2014年5月25日発行(毎月1回25日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2014, Printed in Japan

(1部)定価: 本体1,400円＋税

2014年・年間購読料(増大号を含む12冊): 冊子版16,710円、冊子＋電子版/個人19,710円、冊子＋電子版/共有22,200円、
 電子版/個人16,710円、電子版/共有19,200円(いずれも税込、送料弊社負担)

発行: 株式会社医学書院 代表者: 金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部 TEL: 03-3817-5659

『看護教育』編集室 TEL: 03-3817-5776 メールアドレス: kankyou@igaku-shoin.co.jp 担当: 加藤・大野・早田

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

JCOPY (社)出版者著作権管理機構委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(株)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969、FAX03-3513-6979、info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。0047-1895/14/ ¥500/ 論文/JCOPYが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複写につき500円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCOPY宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。

「看護教育」は、株式会社医学書院の登録商標です。

本誌「看護教育」では、みなさまの誌面へのご参加をお待ちしています。

(2011年3月1日改訂)

掲載欄

●**看護教育研究**：看護学教育についての研究で、独自の知見が認められる論文／●**実践報告**：看護学教育の実践に関する内容で、発表の意義が認められる論文／●**調査報告**：看護学教育についての調査で、発表の意義が認められる論文／●**短報**：報告に準じ、発表の意義が認められる論文(「目的」「方法」「結果」に構成を絞ることを原則とする)／●**スクランブルゾーン**：看護教育に関するご意見や情報交換の欄。上記4区分に該当しない、本誌内容へのご感想やエッセイです(本欄のみ研究論文としての形式は不要)。

ご投稿の前に

●未発表のものに限ります

国内・国外を問わず、他誌に掲載されたもの、掲載予定のもの、自らあるいは第三者のホームページに収載または収載予定のものはご遠慮ください。

●倫理的配慮について

十分な手続きと、必要場合は対象者の同意を得て執筆・投稿をお願いします。

●他論文からの引用・転載は必要最小限に

無断転載は固くお断り致します。必ず原著者の許諾を得てください。

●原則として返却しません

投稿原稿は、採否にかかわらず返却いたしません。

●掲載には査読審査(3か月程度目安)を要します

投稿原稿に対しては、採否にかかわらず原稿受領のご連絡を致します。お問い合わせの際は、受領連絡に記された受付番号をお申し出ください。

●論文の採否について

論文の採否は論文審査委員の査読を経て決定致します。審査の結果、原稿への加筆、修正をお願いすることがありますので、予めご了承ください。

●著作物について

本誌に掲載する著作物の複製権、上映権、公衆送信権、翻訳・翻案権、二次的著作物利用権、譲渡権等は医学書院に譲渡されたものとします。著作者ご自身のこれらの権利を拘束するものではありませんが、再利用される場合には事前に弊社までにご一報ください。

●掲載の場合には

掲載誌と規定の原稿料をお送りいたします。

執筆規定

●原稿表紙

希望する掲載欄を明記した上で、次の項目を漏れなく記載する。論文名、執筆者名(ふりがな)、所属機関、連絡先(複数で執筆した場合は代表者)の住所、氏名、電話番号、ファクシミリ、Eメールアドレス(推奨)。

●原稿分量

「看護教育研究」は8000字、「実践報告」「調査報告」「スクランブルゾーン」は6000字、「短報」は2400字を上限とする。図表等はこれに含む。※図表は、大小にかかわらず1枚400字相当として換算(引用文献も字数に含む)。

●本文

B5判あるいはA4判に横書きとする。

●図表・写真

図表・写真は本文には挿入・貼付せず、別紙(別ファイル)とする。引用・転載の場合は出典を明記する。挿入箇所は本文に明記する。

●引用・参考文献

本文中の該当箇所の右上に番号を付した上で、本文末尾にまとめて表記する。原則は下記の通り。

・書籍の場合

番号) 著者名：書名、発行所、開始ページ—終了ページ、発行年。

番号) 著者名(翻訳者名)：論文名、編者名：書名、発行所、開始ページ—終了ページ、発行年。

・雑誌の場合

番号) 著者名：論文名、雑誌名、巻(号)、開始ページ—終了ページ、発行年。

原稿送付先

●Eメールの場合(推奨)

メールのタイトルを「投稿論文」とし、原稿は添付ファイルとする(5MB以下)。メールの本文に連絡先を明記して、下記までご送信ください。

kankyou@igaku-shoin.co.jp

●郵送の場合

原稿プリントアウトにデータを保存したメディアを添付し、下記までご送付ください。

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

(株)医学書院看護出版部「看護教育」編集室

Vol.55 No.4

2014 年 4 月
特集

「おかしいな」と思ったときの 学生指導

看護学生の生活は、講義・演習・実習と多忙を極めます。新入生では、親元を離れて一人暮らしを始める学生も多く、生活環境が大きく変化しますし、在生も学年が上がるにつれ求められる知識・技能が高くなり、いたるところに不安や困難を感じています。そんななか、時にはストレスや不適切な生活習慣などにより、心身に不調をきたしてしまうこともあります。

また学生時代は、年齢的にも自らの判断で行えることが増え、交友関係も広がり、さまざまな誘惑にさらされる時期でもあります。看護師になるという強い目的意識をもっていても、モチベーションを高く保ち続けるのは簡単ではなく、つい勉強が疎かになってしまうこともあるかもしれません。これら理由から、学業が大幅に遅れたり、なかには継続を断念せざるを得なくなったりしてしまう学生がいるのが現状です。

では、学生をそのような事態に陥らせないために、また、より学習に集中しやすい状態に導くために、教員として何ができるのでしょうか。学生に異変が起こるとき、多くは事前に小さな兆しが見られるはずです。本特集では、「おかしいな」をキーワードに、学生指導について考えてみたいと思います。

- 看護師をめざす学生への「関わり」 池西静江
- ゴールデンウィーク明けからの「遅刻」「居眠り」「再試験」 田中郁江
- 目立つようになった誤字脱字 メイクや態度にも変化が 田丸早苗
- 入学後から見られた居眠りが実習初日のミーティング中にまで 江川万千代
- 実習からの帰校日 背中を丸めうつむき歩く 山田智子
- 実習中に表情がたくなり急に泣き出した 山田百合子／大澤広美
- 熱心だった学生が授業中につつ伏すように 高島尚美
- 友人への頻繁なメールがついに脅迫めいたものに 近藤理理



Vol.55 No.3

2014 年 3 月
特集

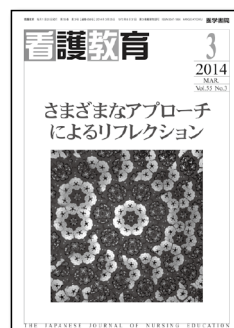
さまざまなアプローチによる リフレクション

「リフレクション」は「省察」「反省」「振り返り」などと訳されますが、どの訳語をとっても、どこもなく内向きなイメージがあります。もちろん自らを問う以上、内面に向かうのは間違いないのですが、「リフレクション」の方法までもが、内向きなもののばかりである必要はありません。

授業者自らが、授業そのものを具体的に振り返り気づきを得る「授業リフレクション」を行うのは珍しくなくなりました。しかし、せっかくリフレクションするのに、何か一つの方法に執着して、さまざまなツールや場があることに気づいていない、気づいていても活かしていないという傾向が否めません。

今回の特集は、先生方にリフレクションの幅広さを知っていただき、構えることなくオープンマインドで取り組むことにより、もっと日常的に授業を「振り返る」ことができるよう願って組まれました。さまざまなツールや場を利用して授業リフレクションを積み重ねていけば、それが授業研究として成立することにも注目いただきたいと思います。

- 日々のふり返りを積み重ね、リフレクションを深化させよう 田村由美
- 授業改善のためのリフレクションを支援するツールや手立ての活用 大山牧子
- 複数の学校の教員が参加して行う授業リフレクション——チームの立ち上げから学校の垣根を越えての実施まで 湯谷孝太郎／岡元裕子／堀裕子／内田武将／波多野文子
- PF-NOTE を活用した教員による学生評価のリフレクション 平山朋子
- 学習ノートのリフレクションツールとした授業の実践 江川美由紀／後藤多美子



[2014 年 2 月号 (Vol.55 No.2)]

**効果的な授業の
工夫としての e ラーニング**

[2013 年 11 月号 (Vol.54 No.11)]

助産師教育の現状と課題

[2014 年 1 月号 (Vol.55 No.1)]

授業研究のすすめ

[2013 年 10 月号 (Vol.54 No.10)]

**対話のスキルを
教育に活かす！**

[2013 年 12 月号 (Vol.54 No.12)]

**移動介助技術の指導方法
ボディメカニクスを実践に活かす**

[2013 年 9 月号 (Vol.54 No.9)]

**2014 年の国試に向けて
できること**

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2012 年 3 月号 (Vol. 53, No. 3) 以前の号は、東亜ブック (TEL.03-3985-4701, FAX 03-3985-4703, <http://www.toabook.com/>)
- 2012 年 4 月号 (Vol. 53, No. 4) 以降の号は、医学書院販売部 (TEL.03-3817-5659) にお願います。